

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 6 期宇治市生涯学習審議会 第 3 回審議会				
日 時	平成 25 年 10 月 18 日 (金) 午後 2 時 ~ 4 時				
場 所	生涯学習センター 1 階 第 2 ホール				
出席者	委 員	○ 奥西 隆三	○ 向山 ひろ子	○ 清水 桂子	
		○ 門脇 洋子	○ 弓指 義弘	○ 六嶋 由美子	
		○ 迫 きよみ	○ 石田 光春	○ 木村 孝	
		× 杉本 厚夫	○ 桑原 千幸	○ 長積 仁	
		○ 森川 知史	○ 小宮山 恭子	○ 西山 正一	
	事 務 局	○ 藤原 千鶴 (教育部次長(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)			
		× 山下 一也 (教育改革推進室長)			
		○ 安達 昌子 (生涯学習課主幹 (兼) 生涯学習センター主幹)			
		○ 川瀬 章治 (生涯学習課主幹)			
		○ 西村 比呂支 (生涯学習課生涯スポーツ係長)			
		○ 北池 顕子 (生涯学習課事業係長 (兼) 生涯学習センター主査)			
		○ 前田 紘子 (生涯学習課生涯学習係長)			
		○ 粕谷 祐次 (生涯学習課生涯学習係主任)			
	○ 西田 知世 (生涯学習課生涯学習係主事)				
傍聴者	0 名				

会議要旨は、下記のとおりである。

前回の会議録について修正事項なし。

(委員長)

先日、私は福知山市で開催された中丹地区社会教育委員連絡協議会に出席したが、長年社会教育委員をしている人から、「社会教育委員は何をするのか」という話題がいまだに出ていると聞いた。現在、社会教育委員の役割が注目され、必要性が高まっているところなので、活発に議論ができればと思う。

(事務局)

1 . 報告事項

・平成 25 年度近畿地区社会教育研究大会 (和歌山大会) について

平成 25 年 9 月 5 日和歌山県民文化会館にて開催。出席委員 4 名。当日は南方熊楠記念館長濱岸宏一氏より記念講演「南方熊楠の生涯」があった。全体会のあとは、分野の異なる五つの分科会に分かれて参加した。

(委員)

私は第 5 分科会・家庭教育支援「家庭教育支援における地域の役割とは～訪問型家庭教育支援の実践から～」を選択した。問題のある家庭は見守ることはできるが、踏み込んでいくことはできない。一步踏み込んだ家庭支援というものに興味を持ったので参加した。大阪府泉大津市家庭教育支援チームは 8 年前に国のモデル事業として始まったが、当初は 2 名から、今は地域の人を中心に 20 代から 60 代までの 10 名が活動している。訪問する家庭と一緒にがんばっていこうという、地域全体で支え合うシステムづくりを目指す姿勢である。学校が支援先を決める。実践例だが、三人の子の母子家庭、母親は夜勤ありのヘルパーで、生活は荒み子どもが不登校になった。チームは何度も足の踏み場もない状態の家に通い、子どもに給食を食べに学校に行こうと一年間誘い続け、ようやく母親の協力、近所の支援を得て、成果を上げた。当初は国の予算で週 3 回行っていたが、市の予算で週 1、2 回に変わった。支援とは引き際が大変であると言っておられた。聞いていて問題のある家庭は訪問が一番いいのだろうなと思った。宇治市も 9 月の新聞で、学校だけでは対応できない事例の対処のために学校支援チームというのができたと知って今後も注目したい。

・第 31 回市民スポーツまつりについて

平成 25 年 10 月 14 日(祝・月)午前 9 時半～午後 3 時。参加料なし。山城総合運動公園「太陽が丘」の全面で各ブースを展開。家族連れの来場が多かった。スタッフ数計 280 名。参加者数のべ約 15,000 人。

・「生涯学習の秋！人材バンクの展示と体験コーナー」について

平成 25 年 10 月 28 日(月)～11 月 1 日(金)の一週間、宇治市役所 1 階ギャラリーコーナーで開催する。期間中常時展示をしており、時間を決めて日替わりで体験・実演を行う。当審議会の西山委員にも登録講師としてミニ講座を開いてもらう。

(委員)

内容は昨年の京都府南部地域豪雨災害、今年の台風 18 号による緊急避難指示に関するものである。「災害は忘れずやってくる」ということで、体験した者が語り継いでいく必要がある。来場者にトピックを選んでもらって 15 分程度のリクエスト講座を行う。

・「子ども読書フェスタうじ」の開催について

平成 25 年 11 月 2 日(日)の開催。宇治市では 11 月第一土曜日を「宇治市教育の日」と定め毎年事業を行っている。また、11 月 1 日は「宇治市子ども読書の日」であり、国で定める「古典の日」でもある。今年は、これらを合わせて「子ども読書フェスタうじ」として開催する。講演、読書活動取組のパネルの展示、俳句のような作品の展示がある。当審議会の六嶋委員にも講演と、教えている宇治市文化センター源氏物語宇治十帖朗読講座受講生の子もたちによる朗読劇をしてもらうことになってい

る。

(委員)

普段着の話をしたいと思っている。子どもたちの朗読劇の発表だが、この日の他にも 11 月 4 日(祝・月)に文化センターで発表する。藤原道長と紫式部の対談形式のものなどあるのでぜひ来ていただきたい。私は平成 25 年 10 月 19 日(土)の「宇治田楽まつり」でも語りで出演させてもらう。

・第 23 回紫式部文学賞受賞作品について

・第 23 回紫式部市民文化賞受賞作品について

資料に各受賞作品・作者の紹介を配布している。これまでの受賞作品の一覧も添付している。

・歴史資料館特別展について

特別展のみ有料であるが、関西文化の日(11月16日・17日)は無料。

2. 協議事項

・宇治市生涯学習推進プラン(宇治まなび AUEO プラン)の総括について

平成 16 年に策定されて、今年度で最終年度を迎える。今後は宇治市教育振興基本計画に取り込まれることになるため、現在その総括をしている。資料について、今月末まで意見を募る。また、このプランに基づいて、生涯学習関連事業に関する庁内調査(年 2 回)を行い、その結果を生涯学習推進会議に報告している。次回の審議会で今年度の調査の報告をしたい。

(委員長)

この総括資料について、意見があれば今月中に事務局に連絡してほしい。宇治市では「社会教育委員会」から「生涯学習審議会」に変わったが、生涯学習が趣味に特化されており、市民が活動の成果を社会に還元出来ていない面がある。東日本大震災の経験を踏まえ、社会教育の「教育」の部分に期待が集まっている。

(委員)

この宇治市教育振興基本計画には、学校教育は入っていないのか。育てたい人間像というのは子どもに限らずという意味なのか。

(事務局)

学校教育のルネッサンスプラン、青少年プラン、先述の生涯学習推進プラン全てが組み込まれている。育てたい人間像の対象は大人、子どもいずれもが対象である。

・『宇治市教育振興基本計画』について

現状では案を出している。第 2 章の部分を資料として配布している。めざす人間像として二点まとめている。施策 1～8「学校の教育力」、施策 9～11「家庭・地域の教育力」、施策 12～14「市民の社会還元力」の三つの目標がある。策定委員会で進めている。本審議会での意見を募りたい。

(委員長)

策定委員会の進めていることは本審議会での今後の議論に関係すると思う。社会教育の役割とは、特に人を育てるところ、これに関しては議論する必要がある。学校教育、社会教育それぞれにしか関わっていない人の間ではなかなか議論にならない面がある。この場では活発に議論していただければと思う。

(委員)

私の夫が公民館で中国語や二胡(中国の楽器)を習っているが、学習成果を還元する機会がない。自己達成が動機になっていて、社会還元という考えが全くない。同じように公民館で習い事をしている人に方向性を示していく必要があるのではないか。

(委員長)

それが生涯学習の現状であると思う。実際、国民文化祭などでは、それを目指してきたこともある。ただ、学校や地域を支援するところには至っていない。我々がどういう社会教育のありようを描いていくのかを議論する必要があると思う。

(委員)

本来、公民館は、楽器を弾いたり、外国語を話したりするためだけの教室には、貸し館をしてはいけない。社会還元の機会を与えていき、できなかつたらよそに行ってもらおう。社会還元を目的としているサークルに、意識を持ってもらう方がいい。仲間を作っていく時期があったと思うしそれが悪いとは思わないが、趣味の集まりになっている一面がある。単なる趣味の団体ばかりで貸し館が埋まっている現状では、新しい人が入りにくく、今後差別化していく必要があるのではないか。ただ一様にその基準だけで追い出すわけにもいかないなので、地域の子ども達に教える機会を与えるなどコーディネーター等の十分な働きかけが要るのではないかと思う。

(委員長)

公民館は公民を育てる場であるが、達成されなかった。趣味のサークルに「出て行け」と言うわけにはいかない。社会に還元できる人を育てるための目標が必要である。「生涯学習」ではなく「社会教育」といわれる理由がそこにある。我々は、どういう仕組みがあれば人を育てていけるか、仕組みづくりを議論するべきだと思う。

(事務局)

公民館サークル連絡協議会には、公民館の運営にも関わってもらっている。また、例えば高齢者教室なら、行政が仕掛けをしてそこで生きがいを見つけてもらえれば、それも社会教育であると思うので、全てがボランティアに移行する必要もないかと考えている。

サークルの中には、子ども達の夏休み等に忙しく活動している方もいる。人材育成というより「人材発掘」かもしれないが、市民の能力を発揮し活躍する場を見つけるコーディネーターの存在が、プラン開始後 10 年経ってもなかなか育たない。いろいろ仕掛けをしても新しい人が年間 20 人いればいい方である。10 年間で、「夏休み子どもフェア」等で関わっている人は 100 人以上いるが 200 人には満たない。学校教育のように毎年決まった人数がたくさん輩出されるわけではない。生涯学習では地域活動での人材育成を、数という形で出してゆくことが難しい。カリキュラムのある学校教育と比べて目に見えるものでなく、見守りや支援が社会教育だと思う。生涯学習部門での勤務が 10 年になるが、私も人材発掘のカリキュラムというようなものをまだ形式化できていない。人とのつながりは単純なものではないのだが、今の若い人にはある程度のマニュアル化が必要だ。

(委員長)

一方的なものの見方は良くないが、皆の共通の認識が市民全体に行き届いていないのが問題ではないか。関わり方、価値観の共有、するしないは別だがやるべきだという考え方を広げていきたい。いろんな経験をしてきた方はたくさんいるので、コーディネート力が重要だと思う。

(委員)

子育てを楽しむ会でつどいの広場「りぼん」というものがあり、その責任者は、生涯学習センターの子育て支援のサポーター養成講座を受けて、その後サポーター登録をして、現在理事をしている。講座修了の際に、参加していた諸団体が活動の案内をしたことで、交流が広まった。私達も赤ちゃん広場という事業をしており、参加者の中から新しいスタッフが出てきていたが、最近はなかなか出ない。どんな活動をするにも後継者の問題を意識している、どこかでふと出会いがあるもので、期待しながら続けている。公民館では、利用者も運営者も、社会に役立つという目的意識を持って活動するよう、明文化したものを掲げたり、貼りだしたり、何でもいいからみんなでやっていくことから始めてはどうかと思う。

(委員長)

啓蒙というのは難しい。押しつけがましくならないようにしなくてはならない。

(委員)

地域の教育力が落ちてきているということは、地域のコミュニティが弱まっていることに直結している。地域の教育力を復活させるには町内会が働きかける必要がある。向こう三軒両隣を最小単位とした、仕掛けがきっかけとなる。伊豆大島と同じ雨量が琵琶湖流域に降れば天ヶ瀬ダムが放流し大変なことになる。今夏の台風 18 号で宇治川が警戒水域に達し、不気味なサイレンを聞いてみんなが怖い思いをした。防災をきっかけに地域の教育力を取り戻すことができるのでは。我々がやっていくべきことは、活動の火に、常に油を注いで消えないよう、大きな火にしていくことだと思う。

(委員)

宇治市も、市内約 600 の町内会の半分程度で防災についての講演活動や出前講座をしている。私は「出る釘は打たれるが、出すぎた釘は打たれない」と感じている。町内会にはいろんな分野に秀でた人がいて、いざというときにそれぞれの経験を生かして各地域にリーダーとなる人が出てくる。そういう人材を有効に使い、平時は福祉、災害時には防災のコミュニティに移行できることが理想だと思う。今回の警報では 6 万人に避難指示が出たが、非常時の行動には平時の活動や意識付けが重要だと思う。

社会教育に関して感じたのは、子どもを知るということは楽しいということだ。叱るのは親、見守るのは我々の役割だ。私が見守り活動を続けている理由は、子どもの安全、自分の健康、子ども世代にしっかり社会に出てもらって支えてもらおうという三つだ。社会教育には子どもからの教育が必要だと思う。

(委員)

これから秋になると各体育振興会の運動会が始まる。私の住む地域では盛んだが、マンションには町内会がなく、地域によってばらつきがある。マンションの子どもも運動会に行きたがっている。年に一回だからと体育振興会に入るよう勧めてみたが、子どもがいる世帯も役職に当たりたくないと言って避けたがる。地域に根付いた活気のあるところは多くの参加があり、スポーツを通じた交流が続いている。

(委員長)

今後もマンション、新興住宅地はできるので、その傾向は続いていくだろう。どう対処するのかが困難な問題だが、至る所で見られる現象だ。

(委員)

マンションには管理組合があり、その中で役職があったりもする。何らかのアプローチをし続けないとコミュニティができあがらない。PTA 役員はマンションからも出ているし、何か方法があるだろうと思うのだが。

(委員)

校区内にマンションがたくさんできたときに、その子ども達に運動会にどんどん出て楽しんでもらって、子ども達から親に町内会に入ってほしいと話すよう働きかけていた事例がある。今は私がそれを実践している。管理組合は生活に関わり利益を追求するが、社会教育は利益が不明である。ラジオ体操ができない町内もあり、子どもを通じて働きかけている。

(委員)

まずは当審議会のメンバーから始めていって、どんどん広げていくしかない。難しいことであるのは重々わかっているが。

また、宇治市教育振興基本計画の目標の中で、「学校教育と社会教育のつながりの強化」とあるが、学校で学力向上を目指し、社会教育とつながるというのは、学校からすると時間も取られ、大変なのではないかと思うがどうか。学校指導要領の変更があり、新しいカリキュラムを作っていく時期に、社会教育と連携している余裕があるのかなと思ったので。

(委員)

私は、地域と学校の連携とは、個人ではなく自治会、町内会、青少年健全育成協議会といった団体といかに関係を持つかだと考えている。福祉委員や高齢者との関わりを作って、一緒に昔遊びをしたり、給食を食べて交流したりということを進めようとしている。学校が課題と向き合う時、地域との連携が必要だと思う。社会教育とのつながりを忌避しているわけではない。PTAには家庭学習の推進を要請している。

子育ての基盤は家庭だと思う。近年問題となっている児童虐待などは、地域からの家庭の孤立が原因である。家庭教育力の低下は、コミュニティと情報を共有できないという状況からくるものであり、これらに対処するため社会教育の必要性を感じる。うちの学区にもマンションが二十数棟あり、子ども会、町内会がないところの子どもも多い。つながりとなる各団体との連携は重要だと思う。マネージメントしてくれる人が地域にいてくれるとよい。

(委員長)

家庭教育支援アドバイザー連絡会でスーパーバイザーの話を聞いた。どうやって問題のある家庭の中に入っていきかが何よりも難しい。そういう活動を全国に広めていって、家庭教育の中に入れていければ良いが、これは本当に大変なことだと思う。

(委員)

この前安全協会の講演会に行って、社会の多くの問題は孤独、孤立が根本にあるという話を聞いた。孤独から来る不安をどう取り除いていくかを考えていかないといけないと思った。

(委員)

子どもの見守りには、子どもと仲良くなる必要がある。それが親へのつながりになる。朝の見守りで、私にいたずらを仕掛けてくる子がいた。後から聞いたところ、家庭に事情がある子だった。そのうち大声で私を驚かせてくるようになったので、私も大きな声であいさつをするようにした。そのようなやりとりが、つながりになっていると思う。構ってほしい子の方が関わりを持ちやすいのかもしれない。

(委員長)

さきほどのスーパーバイザーの話でも、子どもをきっかけにして家庭に入っていくということだった。孤立してしまう人は問題を抱えている。その人自身が問題だと思ってしまうがちだが、そう扱っているとなおさら入っていけなくなる。家庭に入るにはその人を肯定し、こちらを認めてくれるという関係の構築に多大な時間を割かなければいけない。すごく辛抱のいることだが、他に方法はなく、それができる人はほとんどいないという。しかし今はすごい勢いでそういう孤立する人が増えている。

(委員)

地域的なものかもしれないが、私の住んでいる地域には、教師をしていた人が退職後、町内活動や福祉活動、生涯学習活動のリーダーをしている人が本当に多く、地域に還元している。我々もそのノウハウを吸収している。

(委員)

やはり、教師をしていると在職中に地域の方にお世話になることが多く、貢献したいと思うのではないだろうかと思う。

(委員)

私自身、町内会の組織率でずいぶん悩んでいる。大手のマンションは組織率が 40%程度で、小さいマンションなら 100%のところもある。町内会も小規模の方がまとまりやすいのではないかと思う。後継者育成については、10年かけて二、三人とか、あせらずじっくりと、できることからしてもらおうという風に始めてはどうか。

また、最近は自己主張が強い人が増えたように思う。地域の集まりでの夏祭りの話で、「自分が何も恩恵を受けていないのにどうして手伝う必要があるのか」という人がいる。堂々と言われると周りも「やめようか」となり、悪影響を与える。孤立の問題も、役員の成り手がいないことも、生活の基盤に原因があると思う。子どもがいる、夜に仕事がある、両親がそろっていないなど、役員になれない理由がある。放っておくことはできないのでなんとかしてつながりをつけていきたいが、これらの状況が今後良くなるとは思えない。現状維持が精いっぱいではないだろうか。施策体系にはもっともなことが書いてあるが、どうやって実現するかが問題で、私も日々悩んでいる。同じような悩みを抱えている人も多いので、みんなで悩みながらやるしかない。

(委員)

宇治市教育振興基本計画の基本目標に掲げられていることは素晴らしいことだとは思いますが、「学校の教育力」「家庭・地域の教育力」「社会還元力」などの「力」というのはどういう力のことを指すのかイメージしにくい。十年間でどのような力がつくというのか、もう少し具体化してはどうだろうか。目標なのでぼんやりとした表現なのかもしれないが。また、評価しやすいように、いつまでに誰が誰に対して何をするか、という部分をもう少し明確にしてはどうかと思う。

(委員長)

今回出しているのは「教育ビジョン」という大枠のものであり、今後具体的な部分が出される。策定委員会でも当初はこのあいまいな部分しか出ていなかったため、発言もほとんど出なかった。詳細部分は、現在、検討しているところである。逆に教育力とはどのようなものだと考えられているか。

(委員)

子どもに何かをさせる、身につけさせるというよりも、子どもたちが力を蓄え、内側より自発的に可能性や能力を発現できるようエンカレッジすることが、より重要なのではないかと思う。

(委員)

生きる力が大事だと思う。私は子どもの見守り隊をしているが、我々の見守りが、子どもを安心させる一方で依存させてしまい、危機感を持っていないように感じる。以前私が休みのときにこっそり陰からのぞいたことがあったが、子どもたちはふらふらと歩いていて、そう感じた。青少年健全育成協議会の事業でも全てこちらが用意したものを享受しに来るだけである。やはり子どもというのは受け身な存在なのかなと思う。子どもたちにいろいろな企画の段階から参加してくれたらいいと思う。

(委員)

宇治市教育振興基本計画の目標を見たが、生涯学習とは学習者主体のもので、どういう手段・目的で学習してもいいと思う。みなが社会還元しなければいけないものだとは思わない。ただ、個人の趣味で始まって、進めていくうちに社会に還元したくなることもあると思うので機会を与える、情報を伝えることは行政の仕事だと思う。かといって個人の趣味で終わってしまっても、それも生涯学習ではないかと思う。

(委員)

宇治市教育振興基本計画の目標だが、やはり学力の向上がないと親は評価しないと思う。最終的には教育の主軸はやはり学力だと思う。

(委員長)

学力もはずせない要素であると思う。その学力をどう伸ばすか、ということだと思う。受け身で伸びるより、自主的に伸びていくのが理想だと思う。

(委員)

さきほど、子どもは受け身だという話が出たが、親も受け身だと思う。私の娘が登校拒否をしていた時期があり、私が娘に付き添って登校していたら、地域委員の方も出てこなくなり、私が他の子ども連れて行くことになり、地域委員になってしまっていた。子どもが受け身なのは親が受け身だからなのかと思った。地域の性格があつて少し私の地域はドライなのかもしれない。私の地域は大きな坂道があるのがネックではないかと思うのだが、山手にあるので防災にも縁遠く、子どもも10人しかいない。

一方で滋賀の夫の実家では、田んぼだったが最近急速に家が建って、若い人たちが入ってきた。意外とその人たちがコミュニティに入ってきて、子どもも増え、逆にその人たちがイニシアチブを取って、元からいる人の居場所がないという状況になった。なぜかというとその地域には子ども神輿が出る祭りがある。花笠だけの状態から、法被を着る、山車を引く、囃子を鳴らす、と子どもの年齢によって段階的に違うことができるのが魅力なのだろう。

(委員長)

こういう方向で、具体的にもう少し掘り下げていけたらと思う。学校教育をめぐって、それを支える社会教育について議論できたら良いと思う。スポーツも重要なのではずすことはできない。

(委員)

個人情報等をたてに、内にこもって情報を外に出さない人がいる。私はスポーツクラブに行っているが、会費の支払い手続きに、氏名以外銀行口座情報や電話番号も教えたくないの、毎月現金で払いに来ると言う人がいる。自分を外部と遮断し、人とのつながりを避けていく傾向が進んでいくと、社会教育活動が何もできなくなると思う。

(委員長)

逆にボランティアなどにこれまでになく熱心な方たちもいる。二極化している部分もある。内にこもってしまう人をどう社会に向けていくか、啓蒙という言い方はあまりしたくないが、活動している人の様子を見せていくことが重要だ。

(委員)

特に若い人に、人と関わることを避けたがる傾向があるが、高齢化にも大きな原因があると思う。高齢者ばかりになってしまった地域では、社会教育としてどういうことができるのだろうか。

(委員長)

課題は山積している。何らかの具体的な仕掛けを議論していきたい。今回は宇治市教育振興基本計画について意見を募ったが、次回以降また議論を再開したいと思う。生涯学習推進プランについての意見等があれば今月中に事務局までをお願いしたい。

(委員)

和歌山大会で心に残っていることがある。私の学校時代では教わらなかったが、郷土を愛することである。子ども達には自分の土地を、誇りを持って話せる人に育てほしい。二十数年前にカナダに行く子らに、英語で平等院の説明を書いた文と 10 円玉を持たせて、人に会ったら渡すよう言ったことを懐かしく思い出した。

3. その他

・第 55 回全国社会教育研究大会（三重大会）について

日時：平成 25 年 10 月 23 日（水）～ 25 日（金）*参加は 24 日、25 日

会場：三重県営サンアリーナ等

委員 3 名と事務局 1 名参加予定。

・平成 25 年度京都府社会教育研究大会について

平成 25 年 11 月 28 日（木）午前 10 時半～午後 3 時、京都府南丹市で開催予定。ラウンドテーブルでの議論がある。京都府からは三重大会参加者に報告をしてもらいたいとの依頼があるため、三重大会の参加者に出てもらいたいと考えている。

・第 32 回宇治市「中学生の主張」大会について

平成 25 年 11 月 9 日（土）午後 1 時半～4 時、宇治市文化センターにて。

各校より選ばれた生徒の主張が発表される。

< 次回の会議について >

平成 25 年 12 月 20 日（金）午後 3 時 00 分から